

# 赤馬伝説

翌朝、伯孫の赤馬は  
埴輪の馬に変わっていた…

平成二三年七月九日(土)  
〜九月四日(日)

## 文化財講演会

七月二四日(日) 午後一時〜四時

田中晋作氏(池田市立歴史民俗資料館)

「古墳時代中期の外交と軍事」

天野末喜氏(藤井寺市教育委員会)

「百舌鳥・古市古墳群の魅力を探る」

七月三一日(日) 午後一時〜四時

宮崎泰史氏(大阪府教育委員会)

「馬をめぐる考古学」

野島 稔氏(四條畷市教育委員会)

「王権を支えた馬」

定員九〇名  
無料 申込み不要



## 市民歴史大学 『倭の五王の時代』

8月13日(土) 午後1時30分〜3時

一瀬和夫氏(京都橘大学教授)

「倭の五王と手工業生産」

9月4日(日) 午後1時30分〜3時

高橋克壽氏(花園大学准教授)

「倭の五王の東日本政策」

定員100名

無料 申込み不要

休館日 月曜日  
開館時間 9:30〜16:30

入館料 無料

交通 JR大和路線高井田駅から徒歩5分  
近鉄大阪線河内国分駅から徒歩15分

〒582-0015 大阪府柏原市高井田1598-1

電話 072-976-3430

柏原市立歴史資料館

柏原市市民歴史クラブによる田辺廃寺の伽藍復元  
模型を中心とした「田辺廃寺展」も同時開催

# 赤馬伝説

かわちのくにあすかべのおり たなべのふひとはくそん あるいちのおり ふみのおびとかりよう  
河内国飛鳥戸郡の田辺史伯孫の娘は、古市郡の書首加竜に嫁いでいました。ある日、娘が子どもを産んだので、伯孫はお祝いに加竜の家を訪れました。話がはずみ、帰るころにはお月さんが出て、すっかり夜になっていました。

伯孫が馬に乗って誉田陵ほむたのみささぎのところまで来ると、それはそれは立派な赤馬に乗った人に出会いました。その馬は、跳びはねるように走り、体も大きく、伯孫が今まで見たこともないような馬でした。伯孫は、なんとかして、その赤馬を自分のものにできないかと思いました。そこで、その馬と自分の馬を競争させることにしました。しかし、赤馬は駆けだすとたちまち姿が見えなくなるくらい早く、伯孫の馬ではとても追いつくことはできません。ところが、その赤馬に乗っていた人は、伯孫の願いを知って、赤馬と伯孫の馬を交換してくれました。伯孫はとても喜び、赤馬に乗って家へ帰りました。そして、馬に草を与えて寝ました。

翌朝、伯孫が馬屋をのぞくと、昨日の赤馬は埴輪の馬に変わっていました。伯孫は不思議に思って誉田陵のところまで戻ってみると、誉田陵に並んでいる埴輪の馬の間に、昨日まで自分が乗っていた馬がいるのを見つけました。そこで、埴輪の馬をもとに戻し、自分の馬に乗って帰りました。

これは、『日本書紀』雄略天皇9年にみられる話です。伯孫はくそんが見たすばらしい赤馬は、実は誉田陵（応神天皇陵）の埴輪の馬だったのです。この話が実話であるとは、だれも思わないでしょう。しかし、この話からいろいろなことがわかるのです。

田辺史伯孫や書首加竜が実在の人物かどうかはわかりません。しかし、田辺氏あすかべが河内の飛鳥戸（安宿郡ぐん ふみ かわちのふみ）に、書氏（西文氏）が古市郡に住んでいたことは認めてもいいでしょう。飛鳥戸郡は、現在の柏原市南部に、古市郡は羽曳野市古市周辺にあたります。また、両氏族が結婚などを通じて交流があったことも間違いないでしょう。田辺氏が、普段から馬を利用していたことも確かでしょう。誉田陵ごんだごは、誉田御廟山古墳びょうやまと考えられますが、おそらく立派な馬形埴輪が立っていたのでしょう。

田辺史伯孫ふひとの「史」とは、文章を書いたり、記録したりすることによって、当時の政権で活躍した人たちのことです。田辺氏は、漢文や法令、文字などにすぐれた知識をもっていたようです。この赤馬伝説によく似た話が、中国の史料にもみられます。田辺氏が、中国の伝説をもとにつくり上げた話だと思われるのですが、田辺氏の豊富な知識をうかがうことができます。

このように、赤馬伝説は単なる作り話ではなく、そこからさまざまなことを読み取ることができるのです。この赤馬伝説を、発掘調査で出土している資料などを交えながら、みなさんといっしょに謎解きしてみましよう。

## — 展示資料 —

誉田御廟山古墳—円筒埴輪（大阪府教育委員会）、栗塚古墳—円筒埴輪・犬形埴輪（羽曳野市教育委員会）、岡ミサンザイ古墳—円筒埴輪、野中宮山古墳—馬形埴輪（藤井寺市教育委員会）、奈良井遺跡—ムチ・ブラシ（四條畷市教育委員会）、玉手山遺跡—円筒埴輪・短甲形埴輪・須恵器・土師器、田辺遺跡—円筒埴輪、高井田山古墳—鉄製武器・短甲・輪鏡・須恵器、大泉遺跡—製塩土器・馬骨、平尾山古墳群—轡・馬形埴輪、高井田横穴群—辻金具、鳥坂寺跡—馬形埴輪（当館所蔵）